

# 平成24年度中小商業活力向上事業の詳細(北海道経済産業局管内)

平成24年4月13日

地域	商店街	事業実施商店街の状況	事業概要	取組のポイント
札幌市	発寒北商店街振興組合	JRの駅や小学校に隣接し、食品スーパーの出店やマンション建設により、来街者の人口増加が見込まれる。商店街は地域住民と一体となった活動に取り組んでいる。	コミュニティカフェと隣接する託児所と連携して、子供が安心して遊べる場と育児中の母親達がくつろげる場を整備する。育児中の母親達の質問や意見を先輩母親や各個店にSNSやメッセージボードを活用して繋ぎ、気軽に情報交換ができる場を提供することで商店街への来街機会を増大させる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・当商店街は、日頃から近隣小中学校との連携による職業体験受入や家庭用廃油回収活動など地域コミュニティの担い手として活動してきた。</li> <li>・当商店街は、約2年間かけて地域活性化のコンセプトや取組について検討し計画作成した。</li> <li>・組合理事以外の店主が積極的に事業に関わる体制を確立し担い手不足を解消するとともに責任の所在を明確化した。</li> </ul>
室蘭市	なかじま商店街振興組合	4つの商店街が隣接し、JRやバス等の交通の結節点であり、学生や病院への通院者等の来街者は多い。コミュニティカフェを連携して運営するなど、商店街間の結束は強い。	「商売の基本に立ち返る」ため、お客様に見えるように「おもてなし心得3カ条」を掲示する。地元大学と連携して「食楽ヘルシーMAP」など学生視点の回遊MAPを制作し、スタンプラリーを実施する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・複数商店街が試験的に実施したコミュニティスペース設置運営事業の成功体験をきっかけに広域事業を立案した。</li> <li>・各商店街地区の異なる客層や特徴を把握し、他地区との相乗効果に繋げる消費者目線の情報発信事業等を立案した。</li> </ul>
釧路市	株式会社釧路第一商店街	空き店舗の増加が商店街の魅力の低下を招き来街者は減少しているものの、釧路市の中心部でJRやバス等の交通の結節点に位置し、通院や買い物を目的とした来街者が多い。	空き店舗を改装し、地域住民が求めている「集会・交流ができる場」「趣味を発表できる場」としてのコミュニティホールを整備する。釧路第一商店街による専門店イベントや、地域住民による趣味の発表イベントの利用を促進し、賑わいの拠点をつくる。	・商店街関係者によって新たに株式会社を設立し、事業実施に係る意思決定を円滑化した。
	釧路第一商店街振興組合		「おいしい珈琲の淹れ方講座」や「お年寄りイキイキ化粧教室」など店舗の魅力を活かす専門店出張イベントをコミュニティホールで実施する。コミュニティホールでのイベントに合わせて、商店街の店舗や取扱商品に関する情報発信を行う。	・地域住民に対する生活便利・買物便利に関する需要調査や、店舗に対する顧客ニーズ調査を実施した上で、時間帯・立地・来街者の年齢等を分析し事業立案した。
帯広市	帯広電信通り商店街振興組合	帯広市の住宅地に位置し、街区内の高齢者居住は多い。高齢者や障がい者との協働・共生の取組を行っており、管内の地域商店街活性化法認定の第一号商店街。	高齢者、障がい者等の地域住民が気軽に立ち寄れるコミュニティ食堂及びコミュニティカフェを開設する。街区内の寺院と連携し、毎年4月から7週間にわたり継続的に地域住民を巻き込んだ園芸イベントを実施する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢化率が高いことを地域の強みとして捉え地域住民の需要を調査した。</li> <li>・日頃から付き合いのある障害者支援団体や社会福祉法人の強みを生かし協働を実現した。</li> <li>・地域住民の声に耳を傾け事業の方向性の意思決定を行うリーダーシップと、資金計画等の事業管理の役割分担を明確化した。</li> </ul>